

事例番号 026 まちは歩く場所 ― 観光の振興と学生の交流拡大によるまち再生 ―
(山形県酒田市)

1. 背景

酒田市は山形県の北西部、最上川が日本海と出会う場所に位置する港町である。背後に庄内平野の広大な穀倉地帯を有する。寛文 12 年(1672 年)に西廻り航路が整備されて以来、酒田港は海運の重要拠点として発展し、それがまちの繁栄をもたらした。



酒田市の位置 (資料:酒田市観光物産課ホームページ)

酒田市は 2005 年 11 月に八幡町、松山町、平田町と合併して新・酒田市となり、人口は約 11 万 8 千人になったが、それまでの人口は 10 万人弱であった。その旧市では市全体の人口は多少の減少傾向で推移していたが、中心市街地の人口は大幅に減少していた(1970 年 2.8 万人、2000 年 1.3 万人)。中心市街地の世帯数も同様に大きく減少しており(1970 年 8.1 千世帯、2000 年 4.8 千世帯)、高齢化率は 1999 年に 31%に達していた。

中心市街地では事業所数も大幅に減少していた(1975年3.1千事業所、2001年2.0千事業所)。小売業は1997年から2002年にかけて商店数が116、売り場面積が7591㎡、年間販売額が9392百万円それぞれ減少していた。2001年には隣接町の三川町にイオンがオープンし、2005年8月には駅前のダイエーが撤退した。2005年11月にはイオンの隣接地にさらに大規模ショッピングセンターがオープンした(全国二番目の規模と推定されている)。中心市街地空洞化の要因はこのような大規模店舗の郊外立地によるところが大きいと考えられるが、その他の要因としてモータリゼーションの進展、郊外における宅地開発、中心市街地の地価上昇、核家族化に伴う世帯分離、より広い住宅の需要増等も指摘されていた。

酒田市では、中心市街地の空洞化に歯止めをかけるため、観光の振興と学生の交流拡大の2本柱で活性化を図ってきた。前者に関しては、酒田市が中心となって歴史的資源を活用した観光施設(酒田夢の倶楽、川辺の館、さかた海鮮市場)を整備し、そのネットワーク化を図ってきた。後者に関しては、TMOが中心となって東北公益文科大学や山形県立産業技術短期大学校庄内校の学生等の中心市街地での交流を支援してきた(さかた街なかキャンパス)。以下ではそれらの概要を紹介する。



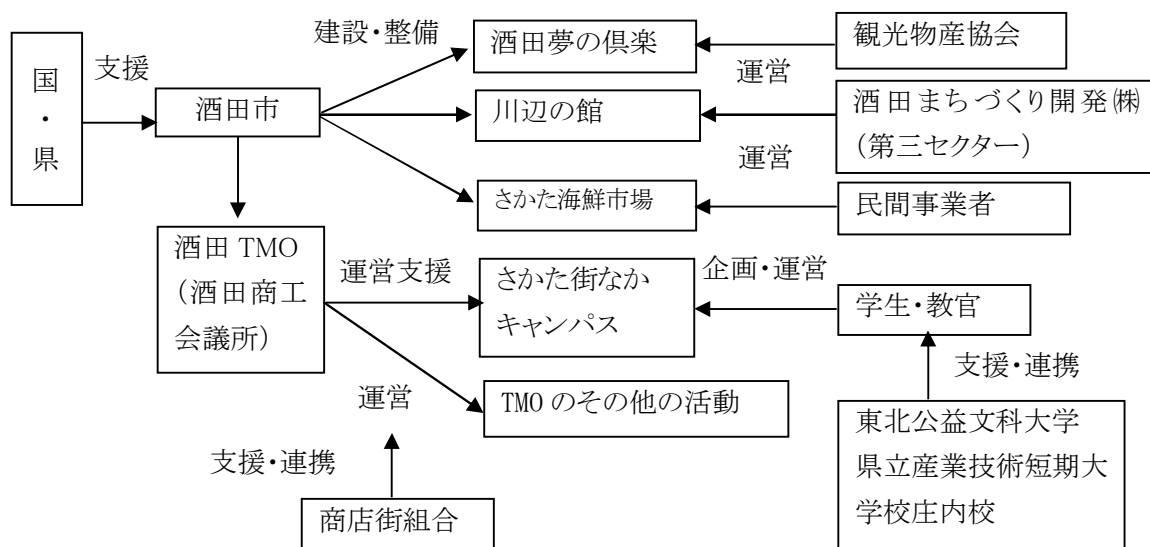
酒田市の市域 (資料:酒田市観光物産課ホームページ)

マにしたまちづくりを促進する」と説明されている。そのようなまちづくりを通じて住む人、働く人、来る人(交流人口)が増加することを目標としている。

3. 取り組みの体制

観光振興に関しては、酒田市が各種観光施設の整備を行い、第三セクターや民間事業者がそれらの運営を行っている(公設民営型)。学生の交流拡大に関しては、空き店舗を活用した交流施設を学生・教官が運営している。その際、国・県・市が活動費の補助を行い、TMO が活動を支援している。東北公益文科大学、県立産業技術短期大学校庄内校、商店街組合も連携している。

取り組みの体制



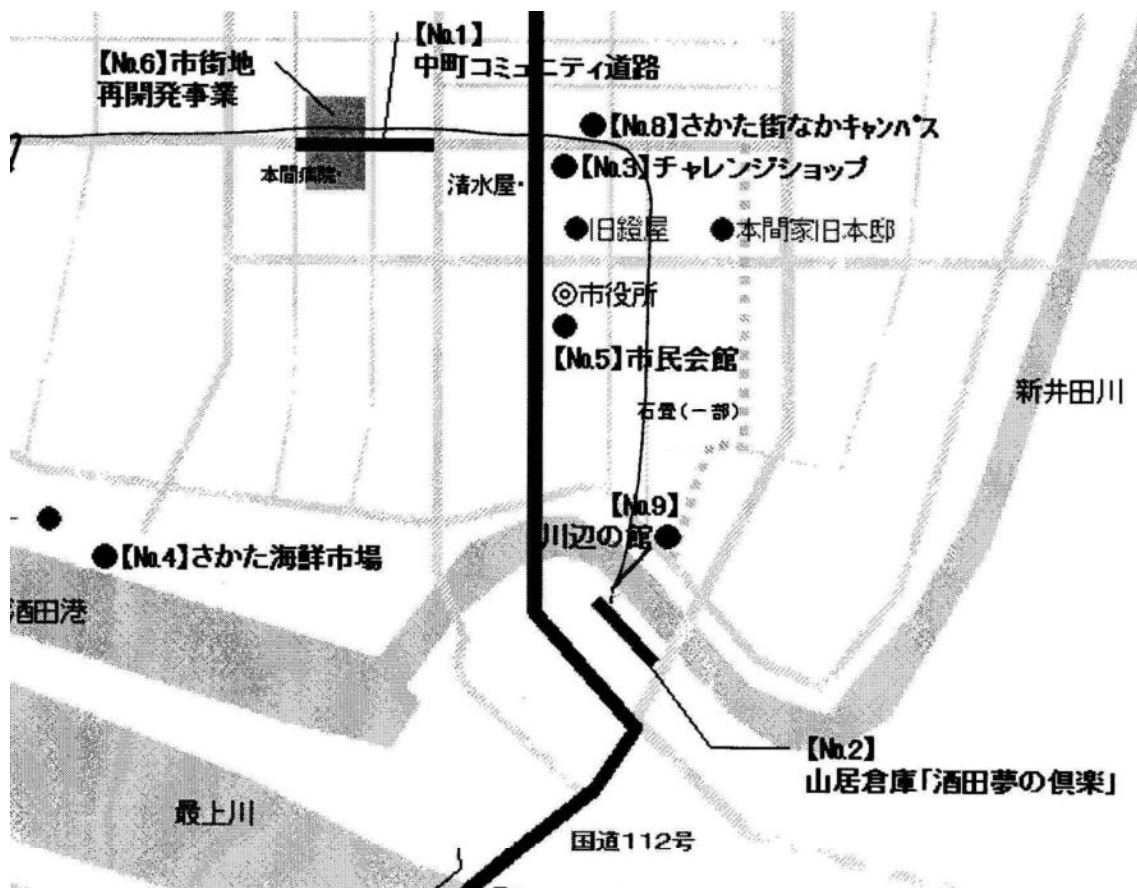
4. 具体策

(1) 観光の振興

① 概要

酒田の観光は立ち寄り型が中心で、宿泊地は湯野浜温泉など他の場所が選ばれることが多い。バスツアー客が最も多く、それに次いで車による立ち寄り客が多い。この立ち寄り型観光を滞在型観光へ誘導するため、酒田市はいくつもの観光拠点の整備を行ってきた。

中心市街地の観光拠点としては、酒田市はこれまで「山居倉庫」、「本間家旧本邸」、「旧鑑屋」、「本間美術館」、「日和山公園」等を整備してきた。また、新たな観光スポットとして「さかた海鮮市場」、「川辺の館」等を整備している。今後はこれらの観光拠点を徒歩や自転車で回遊するための事業(ルート整備、案内板、休息所等)を充実させる予定である。以下ではこれらの中から山居倉庫、さかた海鮮市場、川辺の館を紹介する。

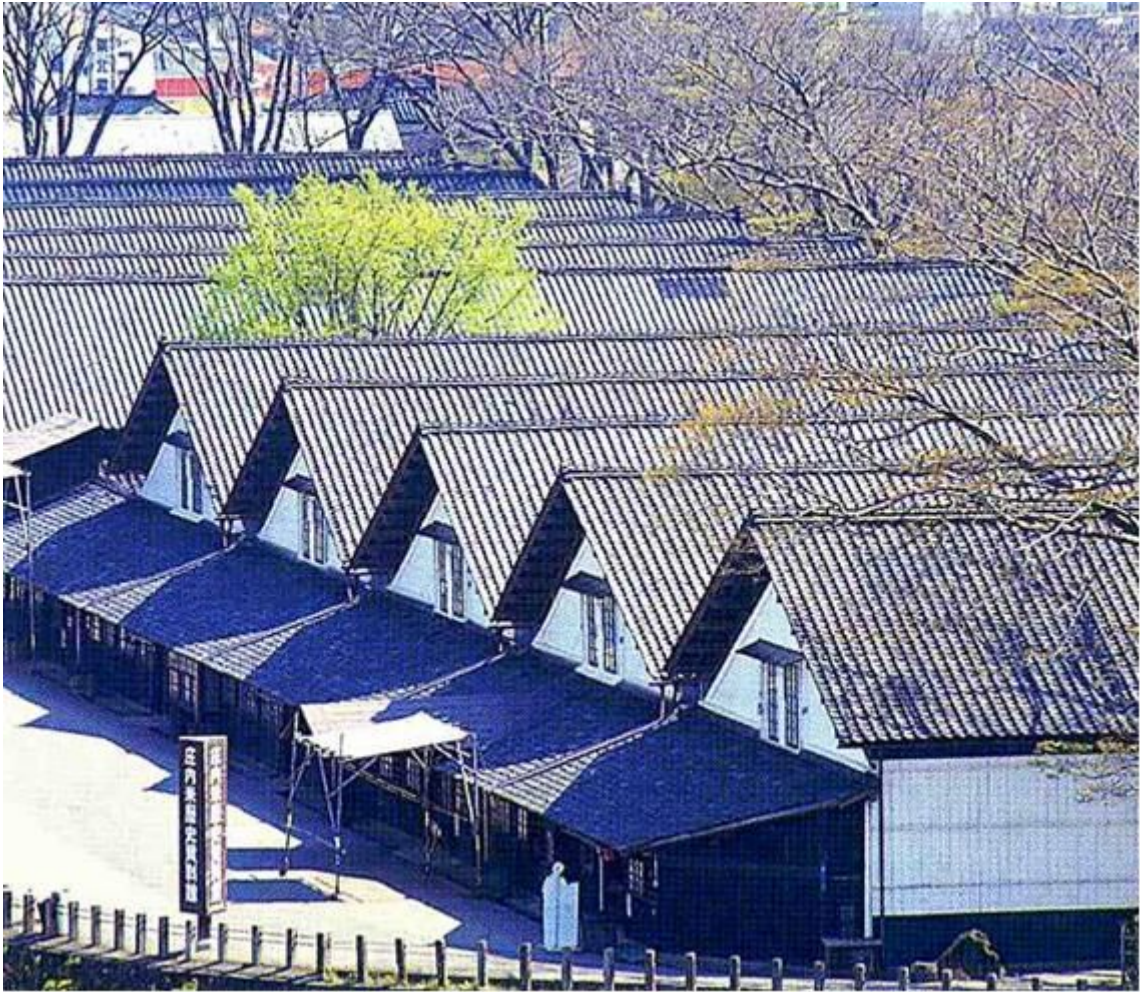


諸施設の位置 (資料:酒田市)

② 「山居倉庫」

山居倉庫(さんきょそうこ)周辺は酒田の代表的な観光拠点として整備されたものであるが、最近台湾で「おしん」が放映されたことから、その舞台となった同地が台湾からのツアーの人気スポットになっている。

山居倉庫は1893年(明治26年)、酒田米穀取引所の付属倉庫として建造され、築百年以上経った今も現役の農業倉庫として利用されている。土蔵造りの12棟の屋根は二重構造で、倉の内部は湿気防止構造になっている。背後のケヤキの大木は、日よけ風よけの役目を果たし、自然を利用した低温管理が行われている。市は、このうち2棟を取得し、「酒田夢の倶楽」(さかたゆめのくら)として2004年にオープンした。酒田の歴史、文化や日本を代表する人形作家、辻村寿三郎氏の作品などを展示する1号館「華の館」と、お土産コーナーなどがある2号館「幸の館」の2棟で構成されている。敷地面積2,116㎡、建物延床面積1,032㎡を事業費約8.8億円で整備し、運営は酒田観光物産協会が市からの運営補助なしで行っている。酒田夢の倶楽の入館者数は2004年度は71万人であった。



山居倉庫群 このうちの2棟が酒田夢の倶楽 (写真:酒田夢の倶楽パンフレット)

③ 「さかた海鮮市場」

さかた海鮮市場は酒田本港地区に 2003 年オープンした。酒田本港地区には親水ふれあい空間があり、また、釣り人やダイバーに人気がある飛島航路の発着点がある。飛島(酒田市に属する山形県唯一の離島)は秋田県境にそびえる鳥海山とともに鳥海国定公園に指定されており、飛島への観光入り込み客は年間 1 万 7 千人程度で推移している(2003～2004 年)。

さかた海鮮市場は市場の他、ふれあい交流スペース、テナントミックス棟、駐車場等が整備されており、飛島航路利用者だけでなく湯野浜温泉からの立ち寄り客など広域から集客している。敷地面積 914 m²、建物延べ床面積 742 m²を事業費約 2.2 億円で酒田市が整備し、民間事業者が補助なしで運営している。身の丈にあった整備をするという方針により、施設規模は比較的小さく抑えられた。整備にあたっては市街地商業等活性化総合支援事業費補助金(補助率:国 1/2)が活用された。さかた海鮮市場の利用者数は 2004 年度は 69 万 5 千人であった(2003 年度は 60 万 8 千人)。



賑わっている酒田海鮮市場 (資料:さかた海鮮市場パンフレット)

④ 回遊ルート整備と「川辺の館」

山居倉庫と中心商店街とを結ぶルート上に、2005 年、酒田市は休憩所、多目的ホール、案内コーナー、甘味喫茶、ファーストフード、専門飲食店が入る「川辺の館」を整備した(山居倉庫とは新井田川を挟んだ反対側に位置する)。川辺の館は、各種情報を提供して来街者の利便性を向上させるとともに町を歩くことの楽しさを感じてもらうことを目的としている。敷地面積 143 m²、建物延べ床面積 233 m²を事業費約 4,800 万円で整備した。中心市街地商業等活性化支援事業費補助金(ハード補助率:国 1/4、ソフト補助率:国 1/3)が活用された。運営は酒田まちづくり開発(株)(第三セクター)が行っている。

(2) 学生の交流拡大

酒田 TMO は 2004 年に「さかた街なかキャンパス」を中心商店街の空き店舗の中に設置した。これは、東北公益文科大学や山形県立産業技術短期大学校庄内校の学生等によるイベントの企画、実施等を支援する施設であり、それにより交流人口の増加を図っている。具体的には以下の活動を支援している。

- ① 学生チャレンジショップ
県立産業技術短期大学校庄内校国際経営科による販売実習
(起業実践教育カリキュラムの一環)
- ② 街なかゼミナール
アートプロジェクト in 中町
(東北公益文科大学半田ゼミ(半田結助教授))
東北公益文科大学、山形県立産業技術短期大学によるワークショップ
公開講座 等
- ③ サテライトキャンパス
まちづくりサークル(東北公益文科大学リスペクタウン等)の活動・交流拠点
学生によるイベント企画、まちづくり情報発信
- ④ ストリートミュージアム常設館として活用

これらの活動に対する支援は、コミュニティ施設活用商店街活性化事業費補助事業として行われており、事業費は総額 880 万円(国・県補助 587 万円、市補助 147 万、商工会議所 147 万)となっている。

さかた街なかキャンパスの 2004 年 8 月から 2005 年 3 月までの利用者数は 6,706 人であった。人数はさほど多くないが、その波及効果が期待されている。さかた街なかキャンパスの展示スペースは人気が高く、2005 年度上期はすべて計画が決まっている状態である。

なお、酒田 TMO は以下のような活動も展開している。

- ・ 空き店舗情報の提供(場所、広さ、家賃など)
- ・ 中心市街地での創業希望者へのアドバイス(2001 年から実施、50 社ほどが出店)
- ・ チャレンジショップ(現在は1店舗のみ営業)
- ・ パブリシティ(TMO 通信を市内全戸に配布)
- ・ アイドルグループ「シップ」の公開オーディション開催支援

2005 年にさかた街なかキャンパス近くの中町三丁目地区で市街地再開発ビル(「中町サンタウン」)が完成した。医療、福祉、商業、公共施設、住宅、駐車場からなる複合施設であり、さかた街なかキャンパスやチャレンジショップにも好影響を与えることが期待されている。



さかた街なかキャンパス

5. 特徴的手法

交流人口の増加という共通目標の元で、酒田市が観光振興を、酒田商工会議所・TMO が商業活性化や学生の活動支援を分担し、目標の達成を狙っている点が特徴的である。

酒田市は公設民営型を前提に施設を整備し、運営を民間に任せている。市は運営には補助せず(川辺の館は例外的に補助)、民間の力がフルに発揮されることを期待している。大規模施設の整備ではなく「身の丈にあった」規模を原則としている点も特徴的である。

さかた街なかキャンパスでは、教官のサポートはあるが、運営を学生の自主的企画・行動に委ねている点が特徴的である。

6. 課題

山居倉庫やさかた海鮮市場は集客力が大きいですが、それらを歩いて周遊することは距離的に難しい状況にある。本間家旧本邸などの他の観光資源とのネットワーク化が課題であろう(楽しく歩ける環境を整えることで心理的距離を短かくことなど)。また、観光客にいかに中心市街地商店街まで足を運んでもらうかも課題である。

さかた街なかキャンパスにおける学生の活動は本来的に集客を目的するものではないことから、それをいかに商店街の活性化に結び付けるかが課題となっている。計画が直近にならないと決まらないという問題もある。評価の高い活動プログラムを定期的を開催することなどにより、活動内容の市民への周知を図ることなどが課題として認識されている。

酒田市と鶴岡市の間位置する三川町には大規模ショッピングセンターが形成されてきており、その影響にどう対処するかということも極めて大きな課題である。酒田駅前のダイエー酒田店が2005年8月に閉店されたことから(産業再生機構とともにまとめた事業再生計画による)、その対策もまち再生の大きな課題になっている。

(参考・引用文献)

酒田市『酒田市都市計画マスタープラン』酒田市、2002年

酒田市『酒田市中心市街地活性化基本計画 W・A・L・K さかた』酒田市、2000年

酒田市商工港湾課『酒田市中心市街地の概要』酒田市、2005年

酒田市商工港湾課『観光施設入り込み客数』酒田市、2005年

山形県総務部総合政策室『商業統計調査結果速報』山形県、2005年

酒田商工会議所『平成16年度さかた街なかキャンパス事業報告書』酒田商工会議所、2005年